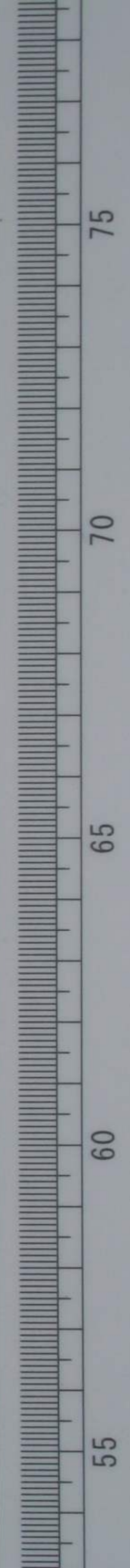




顯書  
 全  
 世界國畫  
 亞細亞  
 州  
 一













明治二年己巳初冬

# 世界圖畫序



福澤諭吉譯述

慶應義塾  
藏版

録

録

録

## 世界國畫序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル  
 中ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則チ天  
 下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知  
 愚ニ係ル一推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國  
 畫ノ著アルヒ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界  
 ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天  
 下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ  
 及ヒ合衆國ヨリヨル各州人士人ゾルプランク

序



氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ルヲ左ノ如シ  
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ  
常ニ其文ノ趣工ヲ盛ニシ或ハ經濟家ノ知寸  
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明  
辯ヲ贊シ字句秀英文華麗自カラ人ヲシテ  
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ尠カラス  
然リト雖ニ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ  
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スルハ誰カ學校  
教師ノ右ニ出ルモノアラシ何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カシ

戒合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間  
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ  
サルモノナシ例ヘハニウヨルク州ニ於テハ  
闔州ヲ九千區ニ分テ每一區必ス一所ノ學校  
ヲ開テ教ヲ授ケリ但ニ五十所ノ大學校及ヒ許  
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ

此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ  
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九



千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コレヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ

近來ニウヨルクニ於テ人物ヲ選舉スルニアリテ其時入札ヲ投シタルモノ三十余萬人ナリシ奉行ナドノ選舉ナラン蓋シ爾後三十年ノ星霜ヲ過キナハ此人負ノ大半ハ物故シテ繼テ其身分

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教ヲ受ル児童ナラン

我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナラス他ニ又切徳ノ大ナルモノアリ其大ナル者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體裁ヲ寬大ニスト雖正議政其法ヲ巧ニスト雖



臣治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡  
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益  
スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功  
徳ニ及ハリルヲ遠シ

後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ  
承ケテ其名其實ニ耻リルモノアラハ此人物  
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者アラ  
シ先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習  
慣ヲ成シ妻孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル  
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ  
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ

前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導  
シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此  
教ニ亞テ功ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ  
リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増  
加スルヲ毎年十ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教  
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ



去リ小説ニ惑ハスレテ真理ノ趣ヲ解シ其道  
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ  
守リ以テ風化ノ徳ヲ感ニセハ具恩ノ生靈ニ  
及フ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年  
七月八月

福澤諭吉 譯

九例

一此書は世間より翻譯書の風は異なりとも  
其實ハ皆英吉利亞米利加を出版したる地  
理書歴史類を取集めその内より肝要の處に  
け通俗に譯したるものをも私の作意ハ毫も  
交へず

一西洋の年号を其國の宗旨の改りたる年  
を元年と定め明治二年ハ被千八百六十九年  
に當る

九例



一物の数ハ一十百千万十万百万千万一億十億  
百億と十倍つゝ此位より次第に計へ上るな  
り  
一英の一里ハ千七百六十ヤロと云ふも一ヤロ  
とは日本此三尺少一余あり故に其一里ハ  
日本乃十四丁四十間余に當る英の地理の里  
法ハ少く長く其一里は二千二十五ヤロと  
は當る即ち南北緯度の一度を六十に分ち其  
一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀て畧との音  
に近き縦文字を當るゝと云ふハ古來翻譯者  
に思々々色々乃文字を用ひ同ト土地にて  
二も三も其名何れも似たり又或ハ唐人の翻  
譯書を見て其譯字を真似したるも何れも  
ハ唐此文字の唐音或以て西洋此字音に當た  
る也ハ唐音に明に學者達ハ分るべけれ  
ども我々共々少くも分る故に此書中  
ハ勉て日本人に分り易き文字に用るや小



せり實はいろは計り用ても濟むべき答なり  
とも本字を記して服へ假名を附け、記憶を  
ふふ便利なり譬へは南亞米利加此べいり由  
うこり小處へ平柳と記し何きは助平の平此  
字と揚柳此柳の字なりと憶ふ記しておるへ  
易しりりこり、論とふふ遠きと辨、輕乃辨の字  
は辨慶の辨の字なり、論頗の論の字ハ、論語の  
論此字なり大抵此趣、向して譯字を下した  
れども多く此譯書中ふ普通なる文字ハ無理

なりとも其まゝ用て傍ふ假名を附し、此讀  
者其本字を當ふせりして假名の方を記憶を  
るし  
一近年までは日本人も英文を讀む得と和蘭の  
書のを翻譯せりゆへ地名も蘭人の唱と  
英人の唱と同一とせりゆへ由て譯字の相異  
多しりあり譬へは昔日蘭書の翻譯文中は  
窩々所徳禮幾と記したるものを今ハ、填地利  
とひひ古の獨逸を今ハ日耳曼といふが如き







歐羅巴洲

同頭書圖入

四の卷

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の卷

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の卷

地理學の總論

天文の地學

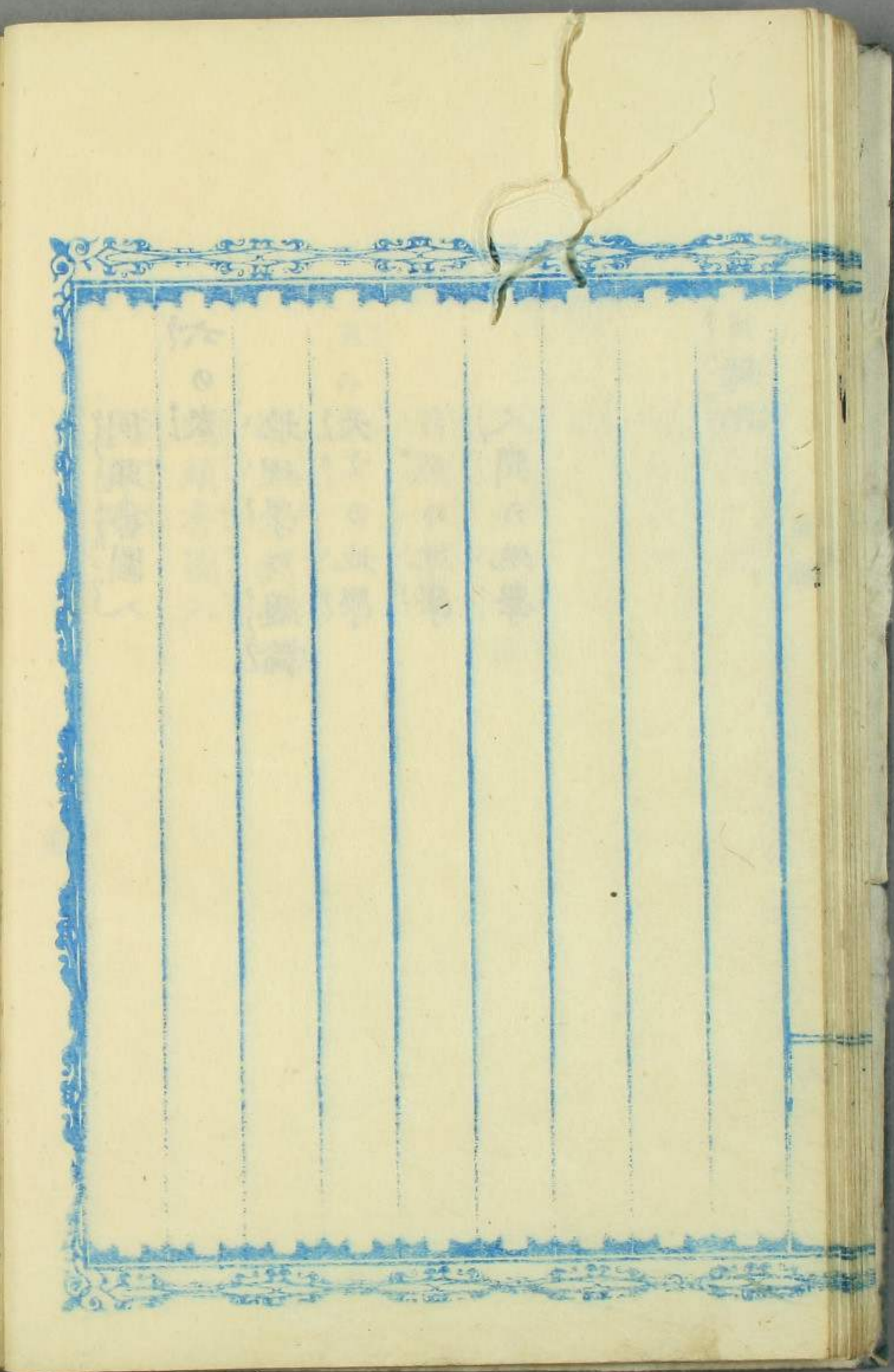
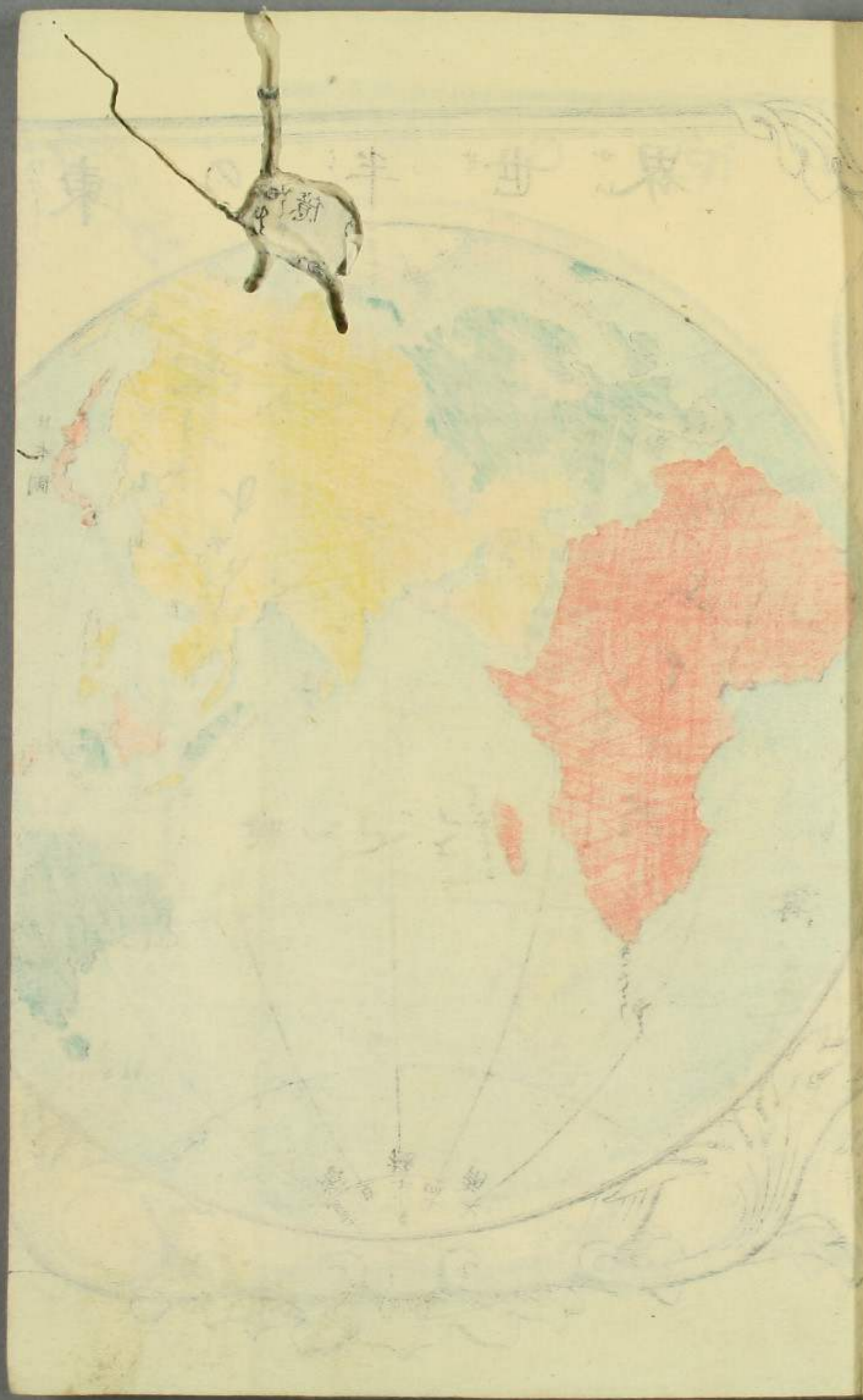
自然の地學

人間の地學

目錄終

目錄

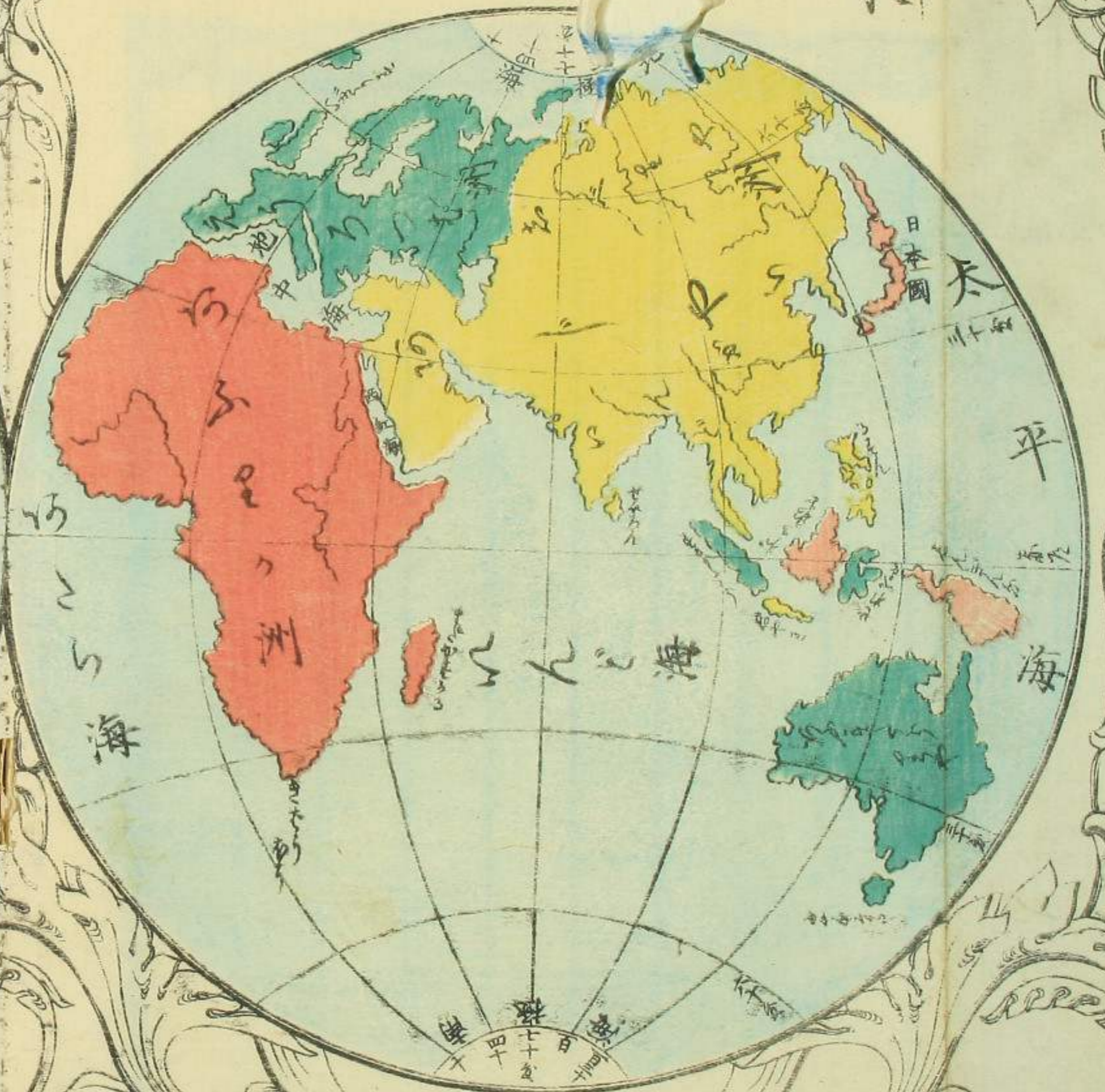
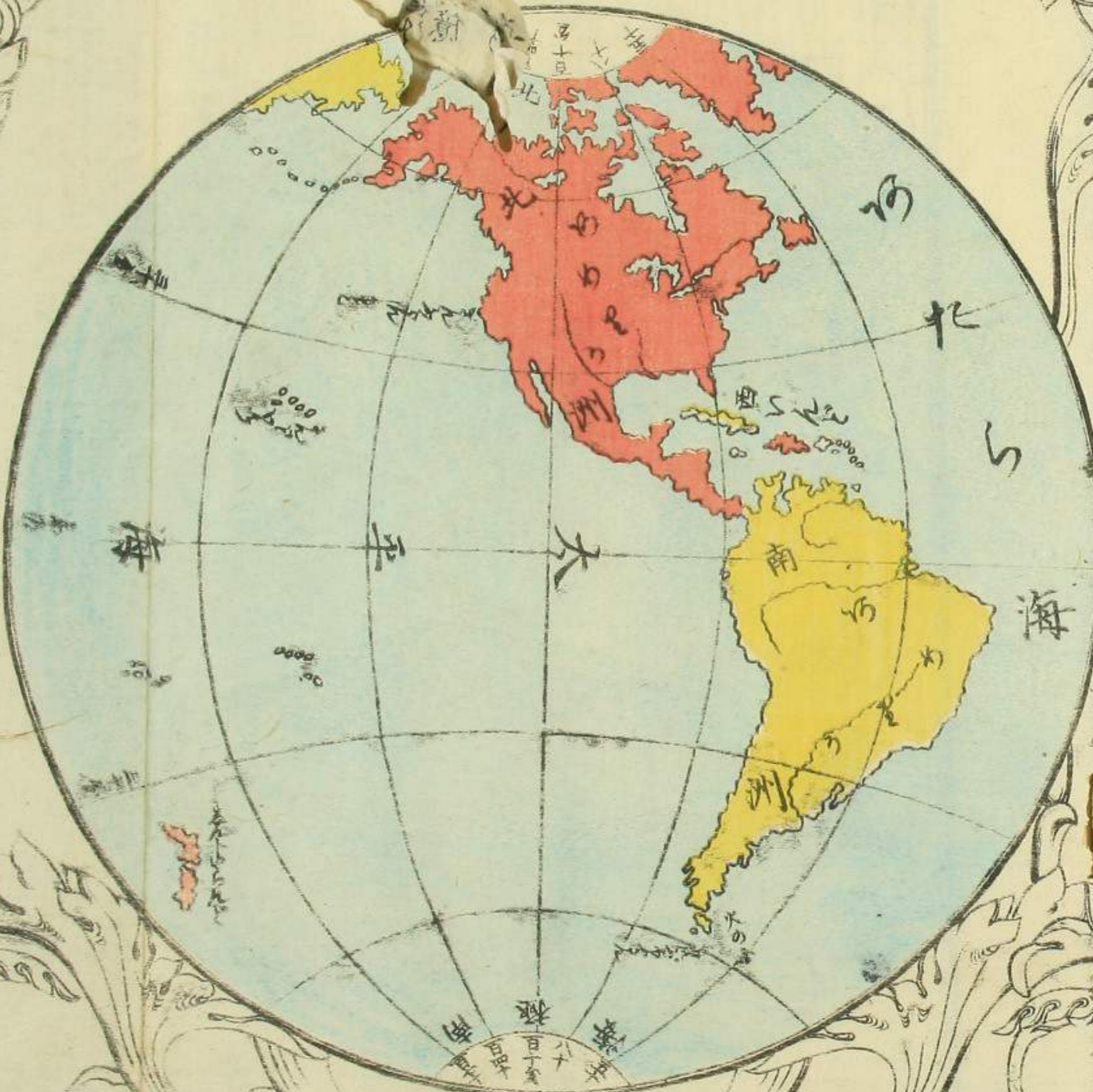






西の半の世の界

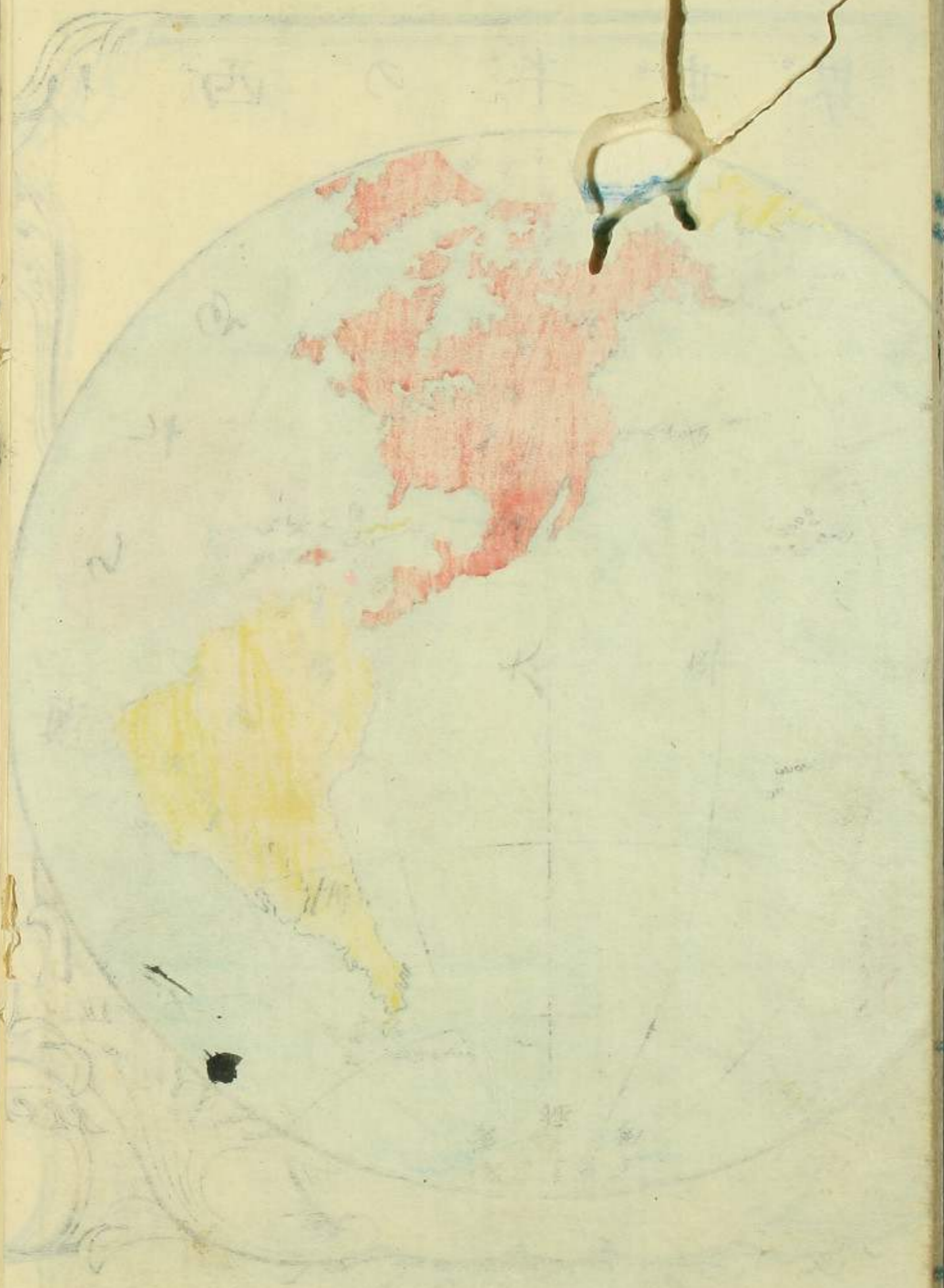
東の半の世の界





世界人民の争  
 世界の廣さハ英吉  
 利の一里四方と一  
 坪と立九二坪  
 敷のめをきと四小  
 かけをえ海ま  
 一人の住ふ陸の廣  
 さハ五十萬坪あり  
 但し英吉利の一里

世界國畫  
 世界の廣さ一里  
 一坪と立九二坪  
 敷のめをきと四小  
 かけをえ海ま  
 一人の住ふ陸の廣  
 さハ五十萬坪あり  
 但し英吉利の一里





日本十四町四  
 十三間は當り  
 世界中の人の數ハ  
 九十億  
 近一國々  
 の土風小由て面色  
 も同トかゞど知愚  
 も一様なり其區  
 別と五種に分り世  
 界中不多少の割合  
 左の如し

亞細亞河非利加歐  
 羅巴北と南は米  
 利加と螺は北は  
 亞大洲大洋海は別  
 々々南は北は

歐羅巴の人種ハ色  
 白其數四億二千  
 萬人  
 亞細亞の人種ハ色  
 少しく黄り其數  
 四億六千萬人  
 亞米利加の山は住  
 一々種ハ色赤  
 其數一千万人  
 阿非利加の人種ハ

名種なるは土化の風  
 俗人情は変遷し  
 一かゝるも人種  
 各知しるも人の  
 別なる甲斐あり

世界國盡卷一  
 二



色黒し其數七千萬  
 大洋州に住する萬  
 人の茶色なり其數  
 四千萬人  
 亞細亞洲の事  
 細亞の土地の廣  
 さ八千五百五十  
 萬坪人の數六億人  
 五大洲の中より一

其のひと得人きこし  
 水い文書より格遊ふ  
 音重子へ意の訓の事  
 始より筆とるを大  
 略以志もい河ハ

びんの大洲



廣き亞細亞の内  
 し人の種類も色々  
 おもむきども蒙古人  
 の種として其種族最  
 も多し或ハあれと

亞細亞洲  
 地球の北極  
 西に先月一西あり  
 水は帰る  
 乃海環の端に



亜細亞人種といふ  
 氣候も北方志邊里  
 や屋の方ハ甚ど寒く  
 赤道の南に至るまで  
 赤道近く甚ど熱し  
 禽獸草木もみな  
 準トて異なり  
 ○支那の廣さハ五  
 百二十萬坪人の數  
 四億都の名を北京

際地多に大平海  
 の西に才亞細亞海の  
 東あり。我日本は始  
 し西の...  
 乃國...



といふ國中の男子  
 ハ皆けし坊主なり  
 始て見る人ハ甚  
 と...

支那ハ亞細亞北  
 國ハ武松多ク北  
 くみ... 印度...  
 魯西亞東の...  
 平海...



支那の産物ハ絹布  
 木綿瀨戸物其外象  
 牙細工等小間物多  
 珠茶ハ此の國  
 の銘産ニて毎年外  
 國一積出スルニ九  
 一億斤ハ近シト以  
 不歐羅巴亞米利加  
 不ハ茶園カ一ツの  
 國々の人の用ニ茶

日本國九州紀前  
 長崎支那の東  
 峯の上海海路僅  
 三百里蒸氣船ハ極  
 少水ハ十ハ噸を費



香港の景色

ハ支那と日本  
 積出物品

南ニ有ルニ香港  
 英吉利領ハ一孤島  
 高賣銀少出ニ化



支那ハ曰き國ハて  
往昔ハ大造り事  
と成しともの  
の北京を南の  
方杭州府と通船  
の堀割を長さ三百  
里餘を北の方ハ  
八萬里の長城とて  
長さ上堤を其高  
一丈五尺より三

支那の東洋一以港  
支那の物  
活生古陶虞の時代  
あり年以経るに四  
千歳仁義不常不重

大谷小踏を山と越  
一六百里の長さハ  
及べは當時ハ固よ  
を修覆もふく崩も  
次第をれども珍し  
古跡として西洋の  
人ハ折々見物も  
此長城ハ二千  
年前秦の始皇帝ガ  
胡と防ぐため小築

人情厚事風  
中火の文の深化  
後過去風俗第一  
表し徳を治る



きしものあり  
今より二千三百年  
前支那は孔子とい  
はる人の名高き  
學者は門人も多  
く著作の書も段々  
後の世に傳はり支那  
は勿論日本までも  
人の人のみとと聖  
人として尊敬せらる



支那の政事の立方

適るる學の海を  
天保十二年癸亥  
と和成起し唯一  
とありて和睦  
償洋銀二百萬五

知みよに我よ  
句よ人よと  
乃高枕暴天  
来りて  
抑一忘改の天罰



ハ西洋の語まで  
おちくといへり  
のふて唯上は立つ  
人の思ふ通ふ事と  
すも風すも一國  
中の人皆倍はみふ  
奉公人の根性おあ  
帳面前さへ濟り  
一寸のがととい  
ふ氣おて眞實は國

交の港なりし軍を  
なすし思ふる無智は  
民理はありし年兵  
端は安し軍く弱冬  
ありて戦ひしは今

の為と思ふ者あ  
遂は外國の侮と受  
るよかみかき  
あり既お天保年中  
英吉利は打負し  
きも僕金と拂ひ  
上は香港の嶋と英  
吉利お與へ廣東厦  
門福州寧波上海五  
所の港と無理は開

の成行し  
の多様と憐なり  
豆細豆れ南の面  
の海  
の印及地は西  
の東と區別し西



終外國人ドクゴクジンおふまは  
 けりケリくクくク  
 ○前印度ゼンインと後印度ゴイン  
 とハ鷹寺洲トウジといふ  
 河カと以ヨリて界カイとせし  
 此河コノカの畔ハタチハ阿羅波  
 婆土バトといふ釈迦シカ如  
 來ライの聖地セイヂなり今イマハ  
 ても毎年トシトシ諸方シヨウホウより

多タクハ後印度ゴイン及キ東トウの各カク  
 名ナ前印度ゼンインより  
 高タカ中チュウ羅ラ國クニハ暹羅シエラ  
 安南アンナン尾留ビロ諸シヨ王オウ其ソノ又マタ  
 其ソノ西セイ茲シ國クニ政府セイフを

參詣サンギの人ヒト二十ニジュウ萬人マンニン  
 の餘ヨリなりといふ



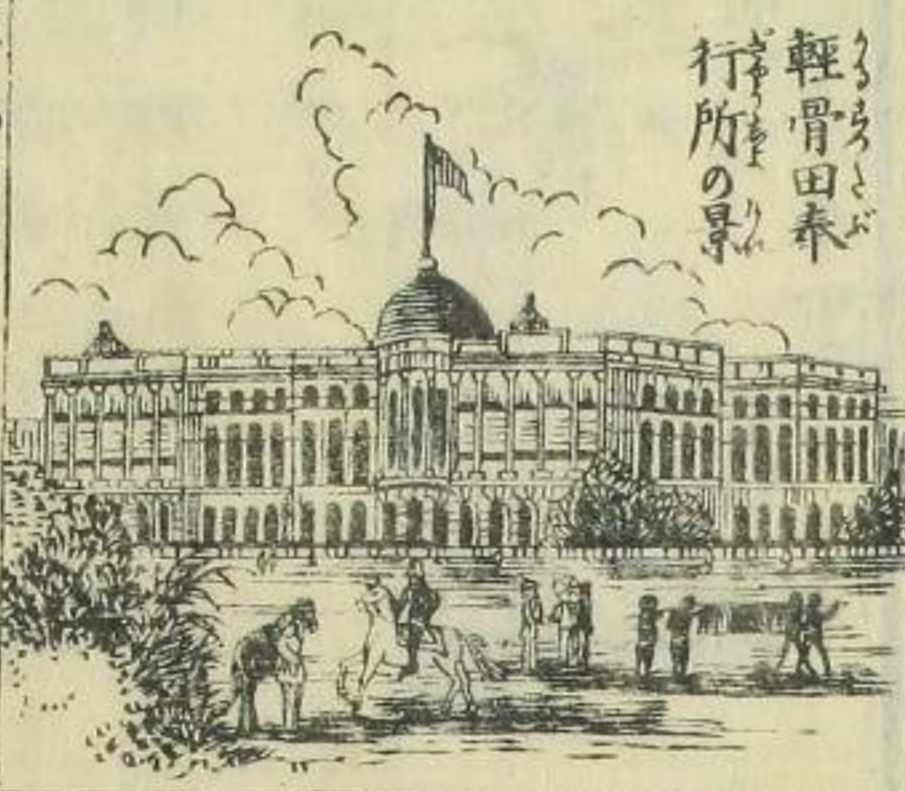
一ヒト一ヒト玉タマす水ミヅと人ヒト  
 氣キ隨ツキ一ヒトく又マタ字ジたす  
 西洋セイヨウ人ヒトハ悔クハシ其ソノ受ウケて  
 於オこも計ケイハ字ジ暹羅シエラ  
 羅ラと尾留ビロ滿マンの各カク



後印度のあとと西  
 洋人ハハインドと  
 九といふ大抵残ら  
 る英吉利領を唯  
 其北の方子獨立國  
 と唱へ英の支配と  
 受ざりもの二三國  
 の前印度も  
 西の方ハ英の支配  
 下きり

しよるのみろる長  
 北滿首花、漢唐  
 多良嶋と對し東  
 西僅う二十餘里間  
 如海、以、漢、首、花、の

輕骨田奉  
行所の景



滿落花の南の端  
 新賀堀といふ小島  
 の英吉利領の港  
 いて諸國の船の立

潮戸と名付し茶屋乃  
 船の往来ハ賑しく  
 際戸ハ此島を以て印為海  
 北、向し、雜、糧、の、入、海  
 深くハ、免、不、粟、の、河



寄る所あり  
 後印度の南の端  
 西論といふ島  
 同トく英領  
 此嶋ハ  
 釋迦誕生の地  
 といふ



印度の産物ハ材木  
 米麥砂糖蜀黍麻藍  
 烟草胡椒阿片黄金  
 鉄銅珠玉の類且  
 の地ハ春夏秋冬の  
 差別ナレ暖國ニ  
 色々珍らしき菓實  
 多ク獸類もハ獅子  
 犀象虎又恐ろしき  
 大蛇蟻あといふ山

の東岸ニ并テ邦  
 種骨田英吉利飲の  
 惣奉行印度北方を  
 交配し軍艦商船  
 教多ク其細互法也  
 英

吉利ニ威勢アリ也  
 度ニ領地トモ  
 印度ニ西の國トモ  
 河英賀仁波丹玉苗



居る

椰子

喰ふ



○邊留社ハ舊國  
もと元來人氣粗  
く政争向暴虐

存漢丹、多々の端  
の鹿留知次丹、楮立  
國の石河、油  
何程、夷狄の西  
下、邊留社名

て下々の取扱  
からざるゆ一國  
の力次第小衰一當  
時に至てハ文武と  
も小列立也十八百  
十三年、文化十八百  
二十八年、文政十魯  
西亞と戦ひ兩度と  
も敗北して大ニ土  
地と失つて進來ハ

世に所謂古國を  
主紀元以前六百年  
白洲五、百、夷、隣  
の、を、知、方、河、武  
威、以、西、面、五、百、年、



英國と交えて英の  
士官を雇ひ武備を  
整うよーやう



一 次々 二 三 三 将 存  
氏 福 之 物  
可 蒙 古 年 改 正  
北 千 百 年 改 正  
政府 不 友 改

○ 荒火屋の大國が  
せども 砂漠とて 邊  
えすく 廣き 砂原ゆ  
て 且 氣 候ハ 熱く  
雨ハ 少く 住ハ 宜  
し から ざる 地なり  
これ ども 平地ハ  
草木よく 生長を 産  
物ハ 藥 種 菓 實 び び  
の 類 多し 獸 類ハ

荒火屋の大國が  
砂漠とて邊  
廣き砂原ゆ  
氣候ハ熱く  
雨ハ少く住ハ宜  
しからざる地なり  
これども平地ハ  
草木よく生長を産  
物ハ藥種菓實びび  
の類多し獸類ハ



馬駱駝珠子ゆらび  
やの馬としてハ既ハ  
日本ハも渡り世界  
中ノ名馬有り此國  
ハ風倍ゆりくあり  
盜賊多きゆ一國ノ  
人々廣き沙漠と越  
し旅行しるハ大  
勢駱駝を乗る武器  
と携へて通行する

下ノ意火原海北冬  
土留吉ニ塚し西  
冬互面互れ陸の陸  
彼岩沼は河冰利  
加海中氷層る



○土留古の領介ハ

西紅海子の南北地  
孫ハ東洲の北峡也  
名え高死石里也  
星ハ鉄道北北也  
北ハ地中海亞細亞



歐羅巴と亞細亞との二大洲は跨る地  
中海と黒海との間  
の瀬戸と以て界と  
せむ故に亞細亞の  
方より飛地と亞  
細亞土留古といひ  
歐羅巴の方より  
本領と歐羅巴土留  
古といふなり當時

阿非利加歐羅巴  
玉塚は中海の  
石一は亞細亞  
屋雨は屋羽禮次  
院惣名要細互土留

ハ土留古の政事不  
取締りなく飛地の領  
分は八度々騒動の  
るよ  
○魯西亞は歐羅巴  
と亞細亞と地續  
て両方又領分あり  
二大洲の界ハ宇良  
留山なり志邊里屋  
ハ馴鹿といふ鹿

古は土留古の政事  
傾地多事  
志邊里屋を亞細亞  
北は石一は亞細亞  
宇良留は林鹿



此もて馬の代り用  
也又一種の犬も  
るも牛馬の如く  
車と引くといふ

馴鹿 橇 引 氷 渡  
と と と と



東の倭を亞米利加  
近くも北極海東西  
戸水多き人々を  
那より北を  
過きた北極海東西

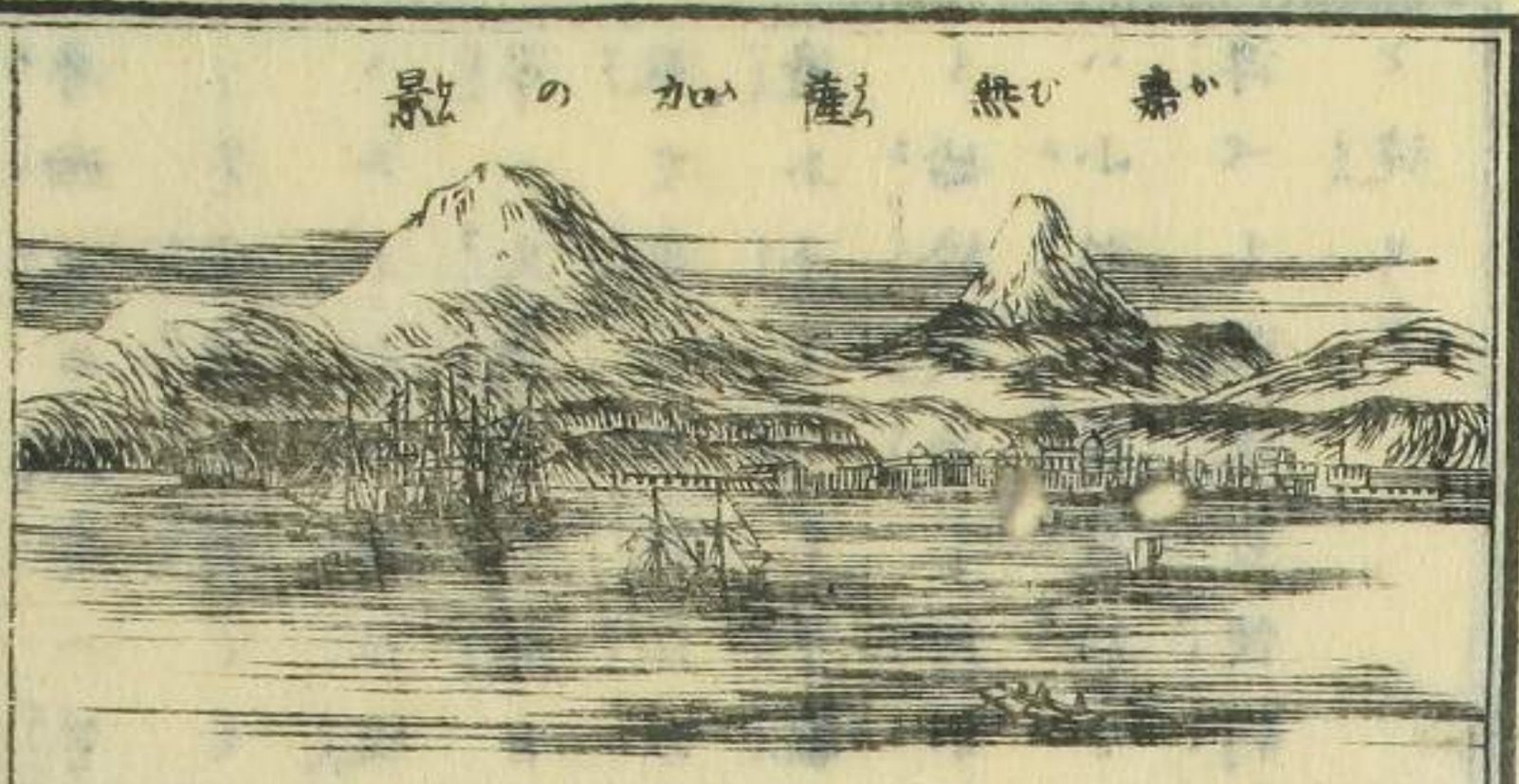
志邊里屋ハ土地廣  
けもども人少く三  
百萬人も過ぐ土人  
ハ獵と渡世とを  
又宇良留山の邊  
ハ金銀の山多く會  
西亞の本國を罪  
人を移して移す  
金子と堀出るといふ  
志邊里屋の産物ハ

一、五百餘里南北  
凡、石里魯西亞の傾  
地の廣大ハ世界第一  
此類多し  
紀奉行所ハ西



獸皮を賣買城の  
 交易も皮と以て  
 支那の反物瀬戸物  
 易つといふ  
 嘉無薩加の港とて  
 以とるなりとさ  
 いふの處を東  
 の方魯西亞領の亞  
 米利加へ往來の海  
 上甚と近し

玉筋千戸保苗次  
 東國筋ふ伊苗久次  
 南境の喜阿久田  
 貴買城を隣し  
 支那と魯西亞の七  
 度



嘉無薩加の景

物互々易と交易  
 場末廻り孝思  
 河瓦の建し仁  
 府我日本以銀  
 煙多る中













# 慶應義塾蔵書目録

西洋事情	初篇再版	三冊	上方の偽版三四條有り
同 二篇		四冊	方今も偽本と賣買有り
同 外篇		三冊	
西洋旅案内		二冊	とれも偽版二三條有り
同 外篇		一冊	事情大篇ありし偽本あり
條約十一國記		一冊	これも偽版二條あり
西洋衣食住		一冊	例本の如く賣買あり
華英通語		一冊	例本の如く賣買あり



英文熟語集	一冊	
雷鏡操法	初編	一冊
同	二編	一冊
同	三編	一冊
洋兵明鑒		五冊
室扶斯新論		一冊
窮理圖解		三冊
天變地異		一冊
英議事院		一冊
萬國		一冊

英文典	一冊	活字再版
博物新篇補遺	三冊	
旗章說畧	一冊	
清英交際始末	三冊	
英軍艦刑法	一冊	
頭書世界圖畫	六冊	
西成		
春國		
錢穀出納表	一冊	
生產道案內	一冊	
英文典直譯	二冊	
西學校軌範	二冊	





新砲操練  
地學事始

一冊  
三冊

